

講演要旨

(一財)日本気象協会の海洋分野の新たな取り組みについて

日本気象協会は今年で創立 70 年を迎えました。気象予報士 315 名、技術士 118 名など全国に1000名弱の社員を抱え、気象予報や気象情報の提供のほか、観測の結果得られたデータを様々な角度から解析、シミュレーションすることにより防災や環境・エネルギーに関するコンサルティングサービスも行っています。

特に海洋分野では長年にわたり港湾局のご指導の下、ナウファス(NOWPHAS)の構築、運用やカムインズ(COMEINS)の運用に関与させていただくとともに、海上風、波浪、高潮などの観測の仕事もさせていただいております。そこで得られた過去 30 年以上にわたる波浪のデータを活用して今年から洋上を航行する船舶に最適航路を提供する海事産業向け海象気象データサービス(POLARIS)を開始しました。

また最近洋上風力発電が活発化する中、環境アセスメントの仕事も行っており、こうした海洋分野での取り組みをご報告させていただきます。